

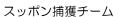
**2015年4月3日**、三杉川でスッポン1個体を捕獲。背甲長が20cm以上ある大型の個体だ(雌雄は不明)。科学部カメ班がアカミミガメを採集するため、網で川岸を探っていたところ、片柳くんの網に、偶然、スッポンが入ってしまったのだ。

スッポンは固い甲羅を持たず、背甲は柔らかな皮膚でおおわれている。その形が円に近いため「**月とスッポン**」の言い回しがある。**性格は荒く**、くびが長く伸びてよく噛み付き、その力は非常に強いので、大変危険である。当日、採集に参加した部員4名が網を3つ重ねて動きを封じて、佐高まで運ぶことに成功した。

栃木県版**レッドテータスック**(絶滅が危惧される種について解説した書籍)では、スッポンは「**情報不足**」に分類されている。スッポンはもともと日本の在来種であるが、古くから全国各地で養殖されていたため、**人為的な移植**が多く、栃木県内でもともと生息していたのか(**自然分布**)、養殖個体が逃げ出したものが生息しているのか等、全く不明なのである。

そこで、科学部カメ班では、スッポンの遺伝子の解析を行っている九州大学の鈴木先生に依頼し、DNAを調べてもらうにといるにした。早速、部員たちにくいの組織が切り取られ、アルカール中に保存された。数ヶ月後には、三杉川に生息するスッポンの由来の一端が明らかにされているかもしれない。







しっぽの先端の組織